

VOL.49



写真：野原聰哲

2024年2月17日 第4回ノダ・アーキサロン「建築構造の今」の様子（内容は次号にて紹介予定です）

2024 SPRING

NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION

火事に負けない木造建築をつくる



やすい のばる
安井 昇

1968年 京都市生まれ
桜設計集団一級建築士事務所代表
NPO 法人 team Timberize 理事長
1993年 東京理科大学大学院（修士）修了
積水ハウスを経て、
1999年 桜設計集団一級建築士事務所設立
2004年 早稲田大学大学院（博士）修了

1993年に大学院（若松研究室（火災安全工学））を卒業してから、30年が過ぎました。そのほとんどの時間を、「木造建築の設計」と「木造防耐火の技術開発」に費やしてきました。

木材・木造と聞くと、「地震に弱い」「火事に弱い」と世間では思われがちですが、ご存じの通り、現在の技術を持ってすれば、設計次第で「地震にも、火事にも負けない木造建築」をつくることができます。設計力によって、木造建築の「壊れ方」や「燃え方」を制御できるようになってきたと言えます。

木造の技術開発が活発になったのは、1995年の阪神淡路大震災での木造被害、2000年の建築基準法の性能規定化（木造による耐火建築物の登場）、2010年の公共建築物等の木材利用促進法の施行など、いくつかの契機がありました。

そのたび、技術開発のターゲットは、木造住宅→小中規模木造→中大規模木造と規模が大きくなり、現在では、その成果により10階建て超えや、1万m³超えの木造建築が都市に現れてきています。

この間、多くの技術開発や法令改正にかかわれたことが大変ありがとうございました。

築約100年の京町家の実家で育ったこと、若松研究室で防耐火の研究にかかわったことが、卒業後入社した積水ハウスを5年でやめて、木造防耐火の世界にもどるきっかけでした。

大学院時代からお世話になった早稲田大学の長谷見雄二先生の研究室の研究員として、1990年代後半から京町家等の伝統木造、2000年代は木造耐火建築物、2010年代は大規模木造建築の防耐火性能の向上に取り組みながら、木造建築の設計実務も両立してきました。

木造の設計がわかり、木造防耐火がわかりはじめると、少しずつ、安全で魅力的な木造建築のかたちをイメージできるようになってきました。

これからも、「設計は日常が最高になるように。

加えて、非日常が最悪にならないように」をモットーに「木造建築の設計」と「木造防耐火の技術開発」の両方を続けていきたいと思います。



木材厚板の CLT(直交集成板) の加熱実験



木材厚さを活かした防火技術による準防火地域の木造住宅

研究室から見えた外の世界



まつした あきひと
松下 晃士

1988年 茨城県つくば市生まれ
2010年 理工学研究科建築学専攻 卒業
(小嶋一浩研究室)
2012年 理工学研究科建築学専攻
修士課程修了(小嶋一浩研究室)
2012年 KUU(中国、上海)勤務
2015年 OFFICE COASTLINE
(中国、上海)共同設立
<https://www.officecoastline.com/>

学生時代の思い出は数多くありますが、やはり所属していた小嶋一浩先生の研究室での経験はその後の私に大きな影響を与えるました。

当時、小嶋先生は中国、カタール、ドバイなど海外で幾つかのプロジェクトを手掛けており、また研究室ではペトナムを含む海外での設計活動や研究に取り組んでいました。私も所属していた3年間、設計課題や先生の事務所でのコンペの手伝いを通じて、海外での設計に何度か関わる機会がありました。

特に印象に残っているのは、小嶋先生と原広司先生が共同で参加したエジプトの大学の国際コンペです。原先生はいつも笑顔で設計に没頭し、小嶋先生も原先生と熱心に議論をされていました。その両先生の楽しそうな姿を見て、憧れを抱き、海外で設計を行ってみたいと意識するようになりました。そして最終的に中国の事務所に就職し、そこで出会った同僚と共に独立し、現在に至っています。

中国で建築を行うと聞くと、多くの人が巨大開発のイメージを持つかもしれません、それは過去の話です。現在は不動産開発が落ち着いており、また建築家の携わる状況は地域によって異なります。

私の住む上海は、超高層ビルが林立する大都会ですが、約100年前の租界時代に建てられた歴史的建造物も多く残る街です。

当時の整然とした西洋風の建築群は、年月を経て生活感溢れる下町へと変わり、西洋と東洋、新旧の要素が混在する独特な環境を形成しています。

街の中心地、旧租界地区では、それらの多くが保護建築となり、若手建築家はこれらの改修や内装設計が主な仕事となっています。私達も、租界時代に日本人が居住していた長屋の改修計画や、70年代文革時代の物資配給センターを公共施設へ改修するなど、設計を通じてこの場独自の歴史と向きあっています。また、あまり知られていないかも知れませんが、上海には東京の倍近いカフェがあり、世界で一番カフェ軒数が多い都市です。私達も多くのカフェの設計に携わっており、この都市の現代的なコンテクストかもしれません。

コーヒー片手に見る上海は、界隈性に溢れ、ニュースやネットで目にする中国とは大分違います。ぜひ上海の歴史と現在を体感しに来てください。



Shanghailander Wuyuan Road

建築と出産と子育てとそれから自邸



土田 知佳

2007年～2009年 設計事務所勤務
2009年 第1子出産
2009年～2013年 設計事務所勤務
2013年～
一級建築士事務所土田知佳デザイン設立
2013年 第2子出産
<https://www.chikatsuchida.com/>

建築の面白さは、人の思い、気候や立地、様々な要件からそのカタチができることだと思っています。大学ではその面白さにどっぷりはまり楽しくて仕方なかった、それは今でも全く変



Tos House

わらない気持ちだと今ここで確認でき嬉しく思います。

大学卒業後若手建築家のものとへ。生活できない程の薄給と実施の仕事がほとんどなくコンペばかり、毎日終電か帰れない日々。コンペで入賞や賞金をもらえないければボスも収入がない、そんな状況でもボスにはお子さんが4人、驚きでした。

ここで得た最大の財産は「人生1つだけを選ぶ必要はない、欲張って良いんだ」ということ。建築で第一線で活躍できるようになるには他の色々なことを諦めなくてはいけないと思い込んでいた私にとって、家族をもち子どもを産み育てることを諦めなくて良いんだ、と思えたことはとてもなく大きな気づきでした。

26歳で結婚し27歳で出産、同年一級建築士の資格をとり3年の実務を経る頃に第2子出産直前、今しかないと独立した30歳。あつという間に10年、10周年の節目の年となった昨年、築37年の中古物件を購入。図面も検査済証もなく違法部分や雨漏りもあり、大規模改修・修繕は不可能、難解な建物を予算も限られる中、家族総出でリノベーション。1階を事務所、上階を自宅として新たなスタートを切りました。階でしっかり住職を分離でき、且つ、つながった空間の中に子どもたちがいて、なにより自分で設計した空間で毎日を過ごせる環境は想像していたよりずっと快適で、幸せを感じずにはいられません。ですがこれで完成とは全く考えておらず常に変化していく建築にするつもりです。余白を残したくて大きくあけた軒下空間は地域との交流の場に成長させ、狭小の我が家ですが街とつながり無限に広がる建築にしたいと目論んでいます。第一線で活躍なんて全くできていないけれど、少し大きくなった子どもたちに甘えさせてもらいながら、次の10年はもっと建築を欲張る10年に、を目標に臨みます。



自邸 before



自邸 after



事務所 before



事務所 after



軒下

とりやまあきこさん作品見学会

文章：星合 善文（1988年卒）写真：野原 聰哲

とりやまあきこさんは2003年理工学部建築学科初見研究室の大学院修了生。「一級建築士事務所あとりえ」の主宰者として活躍している。2023年2月18日、とりやまさんの両親も住むふるさと、つくば市大角豆周辺の作品群を見学した。

大角豆は「ささぎ」と読む難読地名。ここにとりやまさんの原点となる「カフェメモリーズ」〈2003年〉がある。彫刻家のお父さま鳥山豊さん、彫金家のお母さま鳥山玲子さんのデザインスタジオ兼カフェである。とりやまさんは大学院在学中に「カフェメモリーズ」を設計、建設しその過程を修士論文にしてしまった。30席の広々としたカフェは窓外につくばの雑木林を望み、地元の人でぎわっている。



カフェメモリーズでのランチ風景

大きなカフェの窓にひろがる風景の中にとりやまさんの作品である「せせらぎ在宅クリニック」（2021年完成）と「おとの家」（2022年完成）がある。

「せせらぎ在宅クリニック」は診察室を持つ在宅クリニック兼訪問介護ステーションである。約70m²の待合ホールは5mの勾配天井をもつ広々とした空間。床は国産カラマツのフローリングであたたかい空間を生んでいる。軒先には幅2mのウッドデッキの縁側があり敷地を囲む雑木林に視線を導く設計になっている。



せせらぎ在宅クリニック見学

「おとの家」は「せせらぎ在宅クリニック」に隣接した場所にある個人住宅。リビングと趣味のための音楽室がウッドデッキを介して雑木林の風景につなげられている。とりやまさんの作品の共通項は雑木林の見えるつくばの風景を借りることにあるみたいだ。

大角豆地区から車で10分ほど移動するとそこには鳥山さんの母校、「茗渓学園中学校・高等学校」がある。茗渓学園はラグビーの強豪校として知られ、2023年11月には12年連続29回目の茨城県大会優勝を果たしている。



「おとの家」外観 photo by 薫藤さだむ



構造家 楠本氏による説明

とりやまさんは茗渓学園の同級生で構造家の楠本玄英さんらとのチームで茗渓学園の「トレーニング・部室棟」の設計をまかされ2022年に竣工した。この木造建築の特徴は梁の上に斜材がないこと。通常ならトラスが負担する屋根の荷重を柱回りの方杖、火打ちに集中させて小屋裏をすっきりさせている。正面からみると何かを忘れてしまったように小屋裏がぼっかりと空いている。大型集成材、OSB板、構造用合板をあえて仕上げとして見せることで、木加工の技術、木のぬくもりが感じられる空間を実現させている。この作品は林野庁後援「ウッドデザイン賞2022」ハートフル部門 建築・空間分野「いばらきデザインセレクション2022」知事選定を受賞している。



茗渓学園トレーニング部室棟前にて集合写真



つくばセンタービル勉強会

とりやまさんの作品の見学のあとは「つくばセンタービル」内にある竹中工務店の会議室を借りて柳町啓介さん（1988年上原研究室卒）によるつくばセンタービルの勉強会を開催。「なにもないところに何かを作るためには世界中の建築のアイコンを集めて建築の拠りどころとすべき」と磯崎新が提案して「つくばセンタービル」をデザインし「ポストモダニズム」の嚆矢となったことを紹介。

未来都市建設の先駆けとして1983年に完成したつくばセンタービル。40年を経てまだまだ残る雑木林のつくばにとりやまさんの建築家としての原点をみることができた1日となった。

参考情報：とりやまあきこさんの事務所

「あたりえ」 <https://atolie.com/>

カフェメモリーズつくば

茨城県つくば市大角豆 2012-788

電話番号：029-858-5400

営業日：木、金、土曜日 12:00～16:00 営業

https://www.instagram.com/cafe_memories_tsukuba



新任・退任のお知らせ

退任助教のご挨拶



おおえ ゆき
大江 由起

兵庫県神戸市生まれ
2012年 奈良女子大学生活環境学部住環境学科卒業
2014年 奈良女子大学大学院人間文化研究科
住環境学専攻修了（博士前期課程）
2014年～2017年 シャープ株式会社
2020年 奈良女子大学大学院人間文化研究科
社会生活環境学専攻修了（博士後期課程）
2020年～2023年3月
東京理科大学理工学部建築学科助教
(吉澤研究室)
2023年4月～
滋賀県立大学人間文化学部
生活デザイン学科講師

2020年4月より3年間吉澤研究室で助教としてお世話になりました、誠にありがとうございました。

在職期間は終始コロナ禍となってしまい、教職員の方々や学生の皆さんとコミュニケーションを取りづらく大変なこともございましたが、オンラインツールや限られた対面の場を活用しながら有意義な時間を過ごさせていただきました。特に吉澤研究室では多くの研究やプロジェクトに携わらせていただき、研究の幅のみでなく、たくさんの方々との繋がりも広げることができましたこと、心より御礼申し上げます。

2023年4月からは滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科に講師として着任いたしました。建築学科とは異なり、ファッショントレンドやプロダクトデザインなどを含め多角的に学ぶ学科ですが、東京理科大学で培った経験を活かしながら、日々研究と教育に奮闘しております。

末筆ではございますが、お世話になりました皆様に心より感謝申し上げ、今後のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

新任助教のご挨拶



高瀬 雄士

1995年 大阪府生まれ
2018年 関西大学 環境都市工学部 建築学科 卒業
2020年 関西大学大学院 理工学研究科
環境都市工学専攻 博士前期課程 修了
2023年 関西大学大学院 理工学研究科
総合理工学専攻 博士後期課程 修了
2023年 東京理科大学 創域理工学部
建築学科 助教（吉澤研究室）

初めまして。2023年4月に吉澤研究室へ助教として着任いたしました高瀬雄士と申します。

建築環境工学のなかで光環境を専門としています。高度な光環境設計を簡易に実現することを目指し、博士論文では視覚が有する情報処理をモデル化し、主観評価に基づいた視覚的特性を特定しました。その視覚的特性を利用することで、視野内に存在する照明がまぶしさ評価に与える影響量を予測可能にしました。

光環境は快適な室空間の実現に欠かすことの出来ない重要な要素である一方で、まぶしさを始め、明るさ、開放感、眺望性などについて明らかにされていない課題が数多く残されています。これらの課題解決は光環境に関わる研究者にとって重要な使命であり、光環境と視覚の関係を理解することでより良い光環境の提供に繋がると考えています。

若輩者ではありますが研究者・教育者として精進して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

建築見学レポート - 軽井沢の居場所 -

佐久間 達也（1995年修了）写真 © 中山保寛



薄くて長い地形に追従する平屋

2022年11月に遠藤隆洋さんが設計した軽井沢の別荘を見学させていただいた。緩やかな坂を登りながら建物に次第に近づくと木造平屋（一部ロフト）でありながら間口6.37m、奥行29m、最高高さ5.7mの大きなボリュームが木立の間から見えてきた。小川のせせらぎが聞こえている。

外観は金属葺きの切妻屋根、ガラス開口、地面から浮いたコンクリートの濡れ縁という3つの要素が特徴的である。

建物は南北に長く、東西方向は両面とも引違いサッシのガラス開口となっていて外部から室内の様子がうかがえた。屋根の下には離れと母家があり、その間にある玄関ホールはコンクリートの床の半外部空間である。

母家側の室内に入ると周回できる通り土間があり、この土間を上がってすぐに台所、居間・食堂がある。居間には薪ストーブがあり、腰掛けて囲めるように薪ストーブの前には広い掘り込みがある。

玄関ホールから台所、居間へつながる一連の構成は囲炉裏のある日本の民家を想起させる。居間から廊下（広縁）を奥に進むと、個室が3つ直列に並び、それぞれの出入り口はフルオープンになる引戸となっている。

引戸は個室の東西両側にあり、開け放つと周囲の木立や斜面が見え、まさに障子と広縁を持つ民家のように開放的である。室内から外部へ連続した深い軒や、地面から浮いた濡れ縁も民家が持つ建築要素の現代的解釈と言えるかもしれない。

この別荘ではクライアントの親族の方々が集まり、毎年ある限られた期間を一緒に過ごすこと。

プライベートとパブリックが入り混じる共同体のための空間であり、自然の中で生きる日本の伝統的家屋とのつながりを感じる。

内部空間では梁や柱の軸線が端正に現れている。間口方向は、座屈止めのロッド以外は水平梁を無くし登り梁のみに整理されていて、白い家型のボリュームが入れ子形式になっていることが明快に表現されている。東西合わせて28ヶ所の引違いサッシの連窓により木造の柱間が強調されていて、建物周囲の木立の風景と重なる。

遠藤さんは山本理顕設計工場の出身であり、「山川山荘」（1977）は意識していたとのこと。「山川山荘」とは山本理顕氏による初期の作品である。この建物では長方形のプラットフォームの上にボリュームが大小6個あり切妻屋根を支え、白い家型のボリュームの隙間は半外部空間となっている。

遠藤さんの「軽井沢の居場所」の方が遙かに大きく、屋根の下はガラス開口によって室内化されているという違いはあるが、時代を越えて遺伝子が継承されていると感じた。

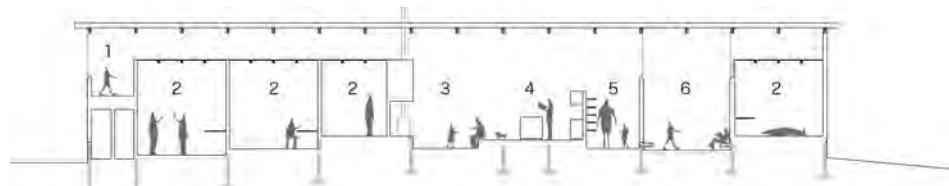
ディテールには様々な工夫が施され、全体はおおらかで明るく気持ちの良い空間となっており、設計者の力量を存分に発揮した優れた作品だと思う。



食堂から雑木林を眺める



居間から連続する広縁・濡れ縁



長手断面図 1/300

- 1: ロフト
- 2: 家族の場所
- 3: 居間
- 4: 台所
- 5: 通り土間
- 6: 玄関ホール



地形に追従する濡れ縁と広縁



左:筆者 右:遠藤さん

えんどう たかひろ

遠藤 隆洋

1978年 東京都生まれ

2004年 東京理科大学大学院修了（小嶋一浩研究室）

2004年 山本理顕設計工場（～2016年）

2016年～ 遠藤隆洋建築設計事務所

2020年～ 関東学院大学非常勤講師

2023年 第55回中部建築賞入選「軽井沢の居場所」
ホームページ <https://www.takahiroendo.com>

信じるんだ、自分を、仲間を、叶える力を。

Believe.

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



学生の活動紹介

2022年度 第25回 NAA賞紹介



石川さん

蛭間さん

徐さん

受賞者：石川 雄一・徐 小婕・蛭間 駿太
学部4年生(令和5年度3月卒業、高瀬研究室)

受賞コメント

石川 雄一さん

NAA賞受賞に深く感謝申し上げます。高瀬先生、井上先生、水谷先輩、篠原先輩、蛭間さん、徐さんはじめ研究室の皆様、関係者の皆様、家族の支援に心から感謝いたします。末筆ながら、皆様の更なるご活躍を祈念いたします。

徐 小婕さん

この度はNAA賞という大変栄誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。この4年間は、私にとって、とても幸せで貴重な時間でした、卒業後も、これまで努力したことの誇りに思い、社会に貢献できる人間として活躍していきたいと思います。

蛭間 駿太さん

この度はNAA賞を受賞することができ、誠に光栄に思います。卒業論文を3人で作成するということで多くの苦労がありました、2回の学会発表の経験や先生や先輩方の支えがあってこそこの賞だと思っております。本当にありがとうございました。



2022年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各賞受賞者リスト

【理工学部建築学科】

卒業論文賞 (一般コース)	最優秀	伊藤研	鈴木 横 四方田 紗乃
	優秀	垣野研	大畠 那美 小川 韶生
	優秀	岩岡研	魏 萌萌 赤木 里菜 内山 恒花
卒業論文賞 (通年コース)	最優秀	大宮研	松 葉太
	最優秀	衣笠研	里見 明莉
	優秀	大宮研	小原 拓己
	優秀	吉澤研	黒部 将史
	優秀	兼松研	岸 光
	優秀	宮津研	赤阪 匠真
卒業設計賞	最優秀	西田研	久川 朋子
	優秀	西田研	水上 翔斗
	優秀	岩岡研	赤木 里菜
学業優秀賞	1位	岩岡研	赤木 里菜
	2位	垣野研	小川 韶生
	3位	大宮研	中村 祐輔
学部長表彰			出口 陽菜

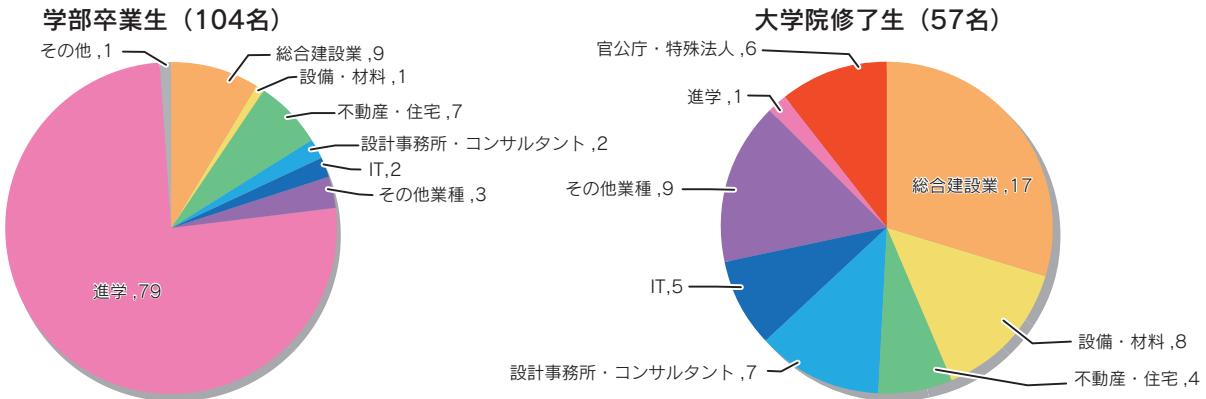
【理工学部研究科建築学専攻】

修士設計賞	最優秀作品	西田研	山道 里来
	優秀作品	垣野研	青木 快大
	優秀作品	西田研	佐野 喜郎
	優秀作品	伊藤研	結城 和佳奈
修士研究奨励賞	最優秀賞	永野研	堤 俊介
	優秀賞	兼松研	安江 歩夢
	優秀賞	吉澤研	三浦 夕紀絵
	優秀賞	衣笠研	鈴木 喜裕

【共通】

NAA賞		高瀬研	石川 雄一 徐 小婕 蛭間 駿太
北村春幸賞	最優秀賞	衣笠研	三角 和歩
	優秀賞	永野研	山田 晴香
	優秀賞	宮津研	岡田 寅杜

2022年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各就職先リスト



利根運河シアターナイト 2023 本祭活動報告

シアターナイト 2023 実行委員

この度は利根運河シアターナイト 2023 に来場有難う御座いました。

今年度は『ほどく』をテーマに利根運河の地形的であつたり心理的であつたりなどの様々な境界に目を向けて、『ほどく』ことで運河を再定義することを目指しました。コロナによる制限がない中での開催となった今年は出店者や大学と地域のライブ出演者の協力のおかげで、多くの方に来場頂き、運河の至る所で賑わいと交流を見ることができました。その結果、利根運河での連続的な風景の創出という私たちの目指していたものが実現できたのではないかと思います。

今後とも利根運河を中心に創造的な活動をしていきますので応援よろしくお願い致します。

開催日時：10月21日土曜日

開催場所：運河水辺公園周辺

テーマ：「ほどく」

ホームページ：

<https://toneunga-theaternight.amebaownd.com/>



ポスター画像



夜の運河を飾る連続した風景

築理会・野田建築会合同新年会 報告

菱崎 嘉昭 (1987 年卒 上原研)

2024 年 1 月 11 日、理窓会倶楽部 (PORTA 神楽坂 6F) で開催されました。

当日は、神楽坂で工学部建築学科の先生の会議があったとのことで、工学部建築学科の先生も多く来られ、野田建築会から出席したメンバーとの交流を図ることができました。野田建築会は、コロナ禍が明けて、活動を全開にしました。築理会のイベントへの参加の機会も増えています。同じ理科大の建築を学んだ者として、これから築理会との交流を活発にし、親睦を図る機会をみなさまにも共有いたします。

ぜひ、みなさまもご参加ください。待っています！！



アルファベット・マンジャロッティの夜

田熊 利哉 (1985 年修了 奥田研)

先日イタリアの建築家マンジャロッティ氏のドキュメンタリー映画「アルファベット・マンジャロッティ」の上映会がイタリア文化会館で行われた。研究室 OB が奥田先生からご招待いただいた。上映会後はゲストとして難波和彦氏をお招きして、研究室の同窓会となった。

さて、マンジャロッティ氏、難波氏と揃われると個人的に思い出す出来事が二つ。それは、小生が研究室の 2 代目大学院院生になった春、奥田先生が在外研究員としてマンジャロッティ事務所に留学されたこと。大学院生活という新たな航海にいざ乗り出すぞ！と意気込んだ矢先、いきなり船長が下船してしまった気分になり大変不安だった。実際は当時講師でいらしていた難波氏に留守中の後見を依頼していただき、何も問題はなかつたのであるが・・・・？！

もう一つは帰国された先生が持ち帰られたマンジャロッティ氏の文献の翻訳を研究室で行ったこと。その文献で「素材の言葉に耳を傾ける」「無記名の建築」という氏の思想を表す言葉と出会い、大変印象に残った記憶がある。映画では氏の作品(建築・プロダクト)や関係者を通してそのことについて映像化され、感慨深く見入ると共にその思想の中に新たな発見があった。

この夜はコロナ禍で 3 年ぶりの再会となり、奥田先生ご夫婦、難波氏そして OB たちで映画の事、昔話などで大いに盛り上がった。



初見研究室 OBG 会

幹事: 加藤克彦 田中敬一郎 朴賢洛 (2000 年修了 初見研 17 期)

2023 年 12 月 16 日(土)18:00 ~ 20:30 四ツ谷の嘉賓にて、初見研究室 OBG 会を楽しく催すことができました。

12 月のお忙しい中、皆様お集まりいただきましてありがとうございました。

初見先生をお迎えして、とても有意義で楽しいひとときとなりました。

当日の記念撮影写真を添付させていただきます。

来年も 18 期の方々が幹事となりましてぜひ開催いたしましょう！と閉会いたしました。



恩師の墓参 快晴

五十嵐 洋也 (1978年卒 上原研)

例年のごとく八王子の東京靈園、上原家の墓所にお邪魔して、もう7年前に亡くなられた上原先生を偲びました。当日(12月2日)は雲ひとつない快晴で都心方面がくっきりと見ることができました。靈園は東向きの緩い斜面にあることと、お墓が東に向いていることから都心方面を先生がいつでも見ているのかなと思った次第です。線香の煙の中にいつも微笑みの絶えない先生の面影が見えたような。

墓参の後は、いつものように皆様と八王子の繁華街に消えて行きました。

墓参の出席者たち

山岸(1981)
福地(1981)
出塚(1984)
白岩(1985)
好土崎(1985)
菱崎(1987)
柳町(1987)
五十嵐(1978)



第7回 なみの会(井口&永野研究室)が開催されました!!

粟飯原 功一 (1985年卒 井口研)

『なみの会』(永野研究室と前身である井口研究室のO B / O G会) 研究報告会が、7回目を迎えました。(11/11)

報告会は新7号館2階ホールで行われ、冒頭、井口先生の挨拶に始まり、永野先生より研究室の近況報告がありました。報告会テーマは『震源断層から室内被害の観点より地震防災を考える』ということで、渡辺哲史さん(小堀研)、濱田純次さん(非常勤講師)、杉本浩一さん(清水建設)、畠田朋彦さん(鹿島建設)、肥田剛典(茨城大学准教授)の5名が登壇されました。テーマから察せられるように、内容はたいへんマニアックなので割愛しますが、なみの会らしい研究紹介でした。引き続き、カナル食堂で、4年振りの懇親会を開催し、総勢70名を超える盛会となりました。

このように、研究室同窓会としては活発な活動を継続している“なみの会”的活動状況をパネル化し、ホームカミングデーで展示しています。(2024年は野田開催で展示予定)



↑集合写真



←報告会状況



なみの会
ポスター →

若手社会人の声 ~今思うこと~



みなみ
南 あさぎ

2015年 頌栄女子学院高等学校 卒業
2019年 東京理科大学理工学部建築学科 卒業
2019年~2020年
アールト大学 Wood Program 修了
2022年 東京理科大学大学院理工学研究科
建築学専攻 修了 岩岡研究室
2022年 芦沢啓治建築設計事務所 入社
<https://www.keijidesign.com/>

こんにちは。

私は都内のアトリエ系設計事務所で働いて、二年目になります。この二年は分からぬことだらけで、必死に過ごしてきました。

住宅、展示会、撮影スタジオ、美容クリニックと様々なインテリアプロジェクトを担当させてもらい、現在はオフィス改修と別荘の新築に携わっています。

社会人として建築の仕事をしている中で感じることは、学生の時よりも楽しい、ということです。お客様の要望を聞きながら、社内で試行錯誤し、現場が始まってからは施工者の皆さんとチーム一丸同じ目標に向かって頑張る日々が充実した貴重な経験となっています。施工側の知識も教えてもらひながらみんなの知恵を振り絞り目の前の壁を一つずつ乗り越えます。

その結果、お客様に喜んでもらえたり、出来た空間を介して人々が集まり、その空間が愛されている姿を見るとキュンとします。

決して楽しいだけではないですが、これからも人々に愛される空間を作り続けたいです。



第14回 野田建築会定期総会開催のお知らせ

定期総会(詳細は後日(3月末頃)配信メールまたはHPやFBでご案内いたします)

日時: 令和6年5月18日(土) 15時~

場所: PORTA 神楽坂会議室(予定)

*リモート(Zoom)併用予定

*総会終了後、懇親会を行います(予定)

【2023年度メルマガ「第4回ヤマザキ賞」のお知らせ】

野田建築会顧問 山崎 晃弘(1976卒上原研)

表題の通り、2022年度から持ち越しながら待ち臨んだヤマザキ賞が決まりました。

この賞はNAAメールマガジンの中で「最もいきいきとした感性あふれる文章」に対して贈るもので、受賞者は赤穂智之(吉澤研究室修士1年)さん。追って、副賞(キャリーオーバーのためAmazonギフト券1万円)を贈ります。選考理由:しっかりとモチーフのなかに、ユーモアあふれるエピソードを交えて、整った感想と結びに導いた、鍛え上げた(・・・・・)文章を評価しました。

2024年1月14日投稿分

タイトル:筋トレしよ!(原文のまま)

失恋をきっかけに、何かを変えたいと決意し筋トレを始めた。最初はなかなか筋肉がつかず何度も挫折しそうになつたが、その度に相手の顔が浮かび、怒りの気持ちを原動力に自分を奮い立たせて筋トレに励んだ。栄養学や筋学を学び、食事管理、自身のトレーニングメニューの見直しやフォームを友人に確認してもらうことで、最終的に筋量を10キロ増やすことができた。筋トレを始めたての頃は、プロテインを買いすぎて家族にかなり引かれていたが、最近はようやく応援してくれるようになった。今では研究室の先輩後輩を誘って一緒に学校のジムに通っている。就職活動でもこの話をしたが、面接官のウケはかなり良く、4人の面接官を全員笑わせて内々定を勝ち取った。筋トレを始めてから冗談抜きで人生が好転していると感じる。新年何か新しいことを始めようとしているなら、私は筋トレを推奨する。



※イメージのため、編集で表示しています

【編集後記】

49号は一年ぶりの会報となりました。1年分の内容なので盛沢山ではありますが内容が少し古いのが気掛かりです。23年度は会報部会の分科会WGで今後の会報のあり方を若手も入れて検討しました。野田建築会のホームページを改良して会報記事をタイムリーにお届けしたと考えております。(大野芳俊)

原稿協力頂きました皆さま、ご対応ありがとうございました。今回から編集対応に加わり、作業の大変さを実感、いつも一手に引き受けて頂いているとりやまさん、感謝の気持ちでいっぱいです。(野原聰哲)

もう1年前になりますが、私の作品を見学につくばまでお越しいただいた皆さま、本当にありがとうございました。P04では星合さんの文章と野原さんの写真で素敵に紹介いただいて嬉しい限りです。これからも頑張ります!(とりやまあきこ)

会費納入のお願い

NAAでは会則により、2024年度(2024年4月1日~2025年3月31日)の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、ノダ・アーキサロンの開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。
※年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPよりお問合せください。

野田建築会会報 VOL.49 2024 SPRING

2024年3月1日

編集:会報部会(大野 芳俊/とりやま あきこ/野原 聰哲)
発行:東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会
銀行振込 ゆうちょ銀行 店番号 019 当座 27644
(氏名の横に『学部の卒業年』を西暦で記入してください)

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから――

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebookページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

